

苦勞なくしては得るものがない

黄靖靖

【2012年7月—2014年3月 亜細亜友之会外語学院に在学】

黄靖靖と申します。2012年7月、湖南農業大学日本語専攻を卒業し、その後、7月生として亜細亜友之会外語学院に入学しました（以下は亜細亜と省略）。先生方の細かな指導と助けのおかげで、国立東京農工大学大学院修士課程に合格でき、4月からは新しい大学院生としての留学生生活を迎えます。

日本語学校にいる一年半の間に、アルバイトをしながら、大学院の受験勉強をしていました。この一年半の中で、たくさんを経験し、自分自身もかなり成長できたと思います。ここでは、これから日本に来る後輩の皆さんに自分の経験を分かち合いたいと思います。

まず、大学院へ進学するため、日本語学校が果たす役割について話したいと思います。日本語学校で何を勉強できるのか、日本語学校の先生にどのような指導をしてもらえるのかはこれから日本語学校に入る学生に最も関心のあることだと思います。4年間中国の日本語学科で勉強してきましたが、日本に来てから自分自身の日本語力はまだまだ足りないと感じました。日本語力の足りなさで、アルバイトで挫折を味わい、それからもう一度真剣に日本語を学ぼうと思うようになりました。今思えば、自分は本当にラッキーな人だと思います。亜細亜の先生方からは、生活の面でも勉強の面でも大変お世話を頂きました。亜細亜を選んだことは、本当に正しい選択だったと思います。学校の寮は必要な設備が全部備っていて、とても住み心地がよいです。学校の中に自習室もあり、授業以外の時間を有効に使うことができました。亜細亜の先生方はとても親切で、勉強の面でも生活の面でも細やかな指導をしてくださいました。私にとって、亜細亜友之会外語学院は大学院進学への架け橋だと思います。ここでの経験と先生方の助けがなければ、自分の夢を叶えることもできなかったと思います。

大学院の志望校を決める時は、どのようなレベルの学校に進学したいか、大学院で何を研究したいかという二点を考えなければなりません。志望校はレベルごとに数校にしたほうがよいかもしれません。一つの学校だけに絞ったら、他のチャンスを逃してしまう可能性もあります。

日本に来たばかりの頃、経済・経営のほうに進みたいと考えていましたが、経済・経営の難しさもすぐ分かってきました。その後、どんな専攻に進むか悩んでいる時に、石川先生に相談に乗って頂いて、貴重なアドバイスを頂きました。担任の先生と進学相談の後、自分の目標と将来やりたいことが少しずつ分かってきました。自分自身の状況と将来のやりたいことを考えて、自分でハッキリした方向を決めてから大学院の志望校を定めたほうが良いと思います。

苦勞なくしては得るものがないというを諺を信じて、これからも頑張っていきたいと思っています。